

■尾竹紅吉(富本一枝) 画家・婦人運動家。“新しい女”を代表するような苦闘の人生を送った。

おたけこうきち

郡司千島探検1893＝

富山市越前町で、日本画家尾竹越堂(熊太郎。弟の竹披、国観とともに尾竹3兄弟とうたわれた)の長女に生れまる。母はうた。本名一枝。

日清戦争始・1894＝1歳：

Bushidou・・1899＝6歳：東京の下谷区立根岸小学校に入学し、祖父母のもとから通ううち、富山大火で父母が上京、

田中正造直訴1901＝8歳：父母と大阪市南区に転居し、

教科書疑獄・1902＝9歳：

日比谷公園・1903＝10歳：東区立第一高等小学校に進み、

日露戦争終・1905＝12歳：

満鉄発足・・1906＝13歳：大阪府立島の内高等女学校に入学、

アヲキ創刊・1908＝15歳：処女作か「美代ちゃんの日記」。

夕陽丘高等女学校と改名後、

韓国併合・・1910＝17歳：第一回生として卒業。上京して、_本郷の女子美術学校日本画選科に入学するが、中退。

大逆事件判決1911＝18歳：_竹披のもとで日本画修業するうち、{青鞆}のことを知るや、

明治天皇没・1912＝19歳：*{青鞆}社員となり、紅吉を名乗って、{青鞆}の表紙を描いたり詩や感想文を発表。“五色の酒事件”“吉原登楼事件”が“新しい女”として新聞で中傷され、奔放さに社員からも非難の声があり、らいてうとともに茅ヶ崎に隠棲。らいてうがのちに“愛の共同生活”に入ることになる奥村博(博史)の登場で、嫉妬かららいてうらを公然と攻撃し、退社。これら一連の事件を経て、{青鞆}は女性解放運動の担い手へと変貌。この間、奈良の陶芸家富本憲吉を訪ねる。

大正政変・・1913＝20歳：_第1回碧画会展に屏風「枇杷の美」が入選、破格の値で売れる。{青鞆}後記で紅吉が無関係と書かれる。

第一次大戦始1914＝21歳：神近市子・小林寄津らと「番紅花」を発刊(6号で休刊)。この間、_富本憲吉と恋愛関係になり、結婚、

21ヶ条要求・1915＝22歳：_奈良安堵村の富本家に住み、長女陽出産後、新居に移転するも、因習の深さに苦悩、

ロシア革命・1917＝24歳：東京で富本憲吉夫妻陶器展(翌年も)。次女陶出産。

大暴落・・・1920＝27歳：新婦人教会に参加。以後ほぼ毎年、家族で各地を旅行。

原敬首相暗殺1921＝28歳：_娘を自ら教育しようと、奈良女子高等師範学校に通い、

水平社結成・1922＝29歳：*“小さな学校”を始め、家庭雑誌{小さき泉}発行。

関東大震災・1923＝30歳：{婦人公論}に小説「貧しき隣人」発表。

円本時代始・1926＝33歳：{週刊朝日}に小説「鮎」発表後、上京し、仮寓、

金融恐慌・・1927＝34歳：長男壯吉出産後、祖師谷に完成した憲吉設計の新居に入る。

世界恐慌・・1929＝36歳：_{女人芸術}編集方針上のアナ・ボル論争の渦中で苦しみ、

満州事変・・1931＝38歳：_憲吉に相談せずに、非合法下の蔵原惟人を匿い、

国際連盟脱退1933＝40歳：_青年共産同盟にカンパして検挙され、一時憲吉と別居。以後、関係が難しくなる。

_この間、{婦人公論}{女人芸術}{婦人文芸}などに、随筆等を書き、

日中戦争始・1937＝44歳：

健保+総動員1938＝45歳：

第二次大戦始1939＝46歳：_この年まで続くが、以後、戦局進展で場失う。

日米開戦・・1941＝48歳：

敗戦・・・1945＝52歳：憲吉が高山に疎開後、小説家大谷藤子の斡旋で秩父に疎開し、敗戦で帰京。

新憲法公布・1946＝53歳：総選挙に際し自宅開放して徳田球一を支援。*憲吉が単身奈良に戻り、自立。

新憲法施行・1947＝54歳：中村汀女を援けて{風花}を創刊。

極東裁判決・1948＝55歳：_長女陽とともに、児童書出版社{山の書房}創立するも、

朝鮮戦争始・1950＝57歳：_経営に行き詰まり、

独立回復・・1951＝58歳：_{暮しの手帖}に童話を連載し始め、

55年体制始・1955＝62歳：第一回日本母親大会に参加。

国連加盟・・1956＝63歳：

なべ底不況・1957＝64歳：憲吉の展覧会を訪ね、再会。

安保闘争・・1960＝67歳：

タイタイ病始・1961＝68歳：この年、憲吉に文化勲章。

全国総合計画1962＝69歳：新日本婦人の会が結成され、中央委員となる。

TV宇宙中継始1963＝70歳：この年、憲吉が死去。

大学紛争始・1965＝72歳：*この年まで、続けたが、

いざなぎ景気1966＝73歳：_肝臓ガンのため、没した。